

省議・第10回「防衛力変革推進本部」における 防衛大臣御発言

- 本日は、変革推進本部及び省議を開催いたしました。
- まず、変革推進本部についてお話しします。本日の議題はイラン情勢で見られた戦い方や課題についてでした。
- 特に、AIの活用によって、情報処理・意思決定のスピードと質が飛躍的に高まり、戦闘全体のテンポや効率が大きく向上しています。
例えば、アメリカ軍は、攻撃開始から24時間で約1,000の目標を攻撃したとしていますが、従来であれば同数の目標攻撃には10倍もの時間を要したとの指摘もあります。
もはやAI抜きに今後の安全保障の確立は考えられない時代に入っていると認識しています。
- 一方で、現代においても、国土の縦深性の活用や指揮系統の柔軟化といった古くからの普遍的な戦い方も、引き続き重要であることが明らかになりました。
イランは、国土の縦深性やホルムズ海峡といった地理的特性の活用、装備の生産基盤の分散・冗長化、指揮系統の柔軟化などを重視した戦いを展開しています。
特に、戦略的要衝であるホルムズ海峡の事実上の閉鎖は、アメリカのみならず、我が国を含む国際社会全体に大きな影響を与えました。
- このようにイランは、アメリカ・イスラエルといった圧倒的な軍事力を有する相手に対し、自国の強みを活かしながら、軍事面だけでなく政治・経済も活用し抗戦を続ける、非対称戦を展開しています。
- さらに、今般のイラン情勢では、戦闘の早い段階から迎撃ミサイルをはじめとする弾薬が大量消費されました。持続的な対応能力の確保の重要性が、これまで以上に浮き彫りとなっています。

- その上で、本日の議論を単なる情勢分析で終わらせず、今後の三文書の改定に活かしていかなければいけません。
- 先ほど、省議において、令和９年度概算要求を決定いたしました。
- 令和９年度は現行の防衛力整備計画の最終年度に当たりますが、イラン情勢での教訓からもわかる通り、国内外の情勢は現行の三文書の策定当時に想定していた以上の速度と複雑性をもって変化しています。
- こうした状況に的確に対応するため、本年中に三文書を前倒しで改定すべく議論が行われています。今後５年以内に防衛力を変革することで、抑止力・対処力を大幅に強化していく必要があります。
- これを踏まえ、令和９年度概算要求においては、まず、大きく３本の柱、すなわち、①「新しい戦い方」への対応、②持続的な対応能力、③防衛力の基盤、これらの３本の柱を重視しています。
- そして、この３本柱の中には、９つの項目があります。すなわち、
 - ①ＡＩ、②無人アセット、③スタンド・オフ、④統合防空ミサイル防衛、⑤宇宙、⑥サイバー
 - ⑦太平洋・シーレーン防衛
 - ⑧防衛生産・技術基盤、⑨人的基盤です。これら９項目に重点を置き、防衛力の変革に向けて取り組んでまいります。
- あわせて、こうした政策課題に対応していくため、局の新設を含め内部部局の体制を強化してまいります。
- 加えて、国防の任務を全うした退職自衛隊員や平素から自衛隊員を支える家族が誇りをもって安心して生活できるよう、退職自衛隊員・家族支援庁（仮称）の設置を含め取組を強化してまいります。

- 以上を踏まえ、今回の概算要求では、現行の防衛力整備計画を踏まえて実施する事業について、約9兆円を計上するとともに、三文書改定の内容に左右されると考えられる事業などについては、予算編成過程において検討することとして、事項要求として要求します。
- また、税制改正については、防衛産業の基盤強化のための諸施策に伴う税制上の措置などを要望します。
- まとめますと、令和9年度概算要求で、防衛省は、3本柱と9項目に9兆円を計上します。「3本柱、9項目、9兆円」です。また、三文書改定に伴うものは、事項要求として要求します。
- 今回の予算要求を実りあるものとするため、各部局においても、国民の皆様への丁寧な説明と政府部内の調整に全力を尽くし、組織一丸となって取り組んでいきましょう。